

# エコアクション21 環境活動レポート

期間

2011-1～2011-12



株式会社 オートアベニュー

2011年12月31日

# 1 会社概要

事業所名	株式会社 オートアベニュー
代表者氏名	代表取締役 伊藤 理香
所在地	〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8
環境管理責任者	飯野 勇
連絡先	〒188-0011 東京都西東京市田無町7-18-8 TEL : 042-466-3233 FAX : 042-465-5101 E-mail : <a href="mailto:isamu-iino@auto-avenue.co.jp">isamu-iino@auto-avenue.co.jp</a>
事業規模	社員数 19人 社屋床面積 90m <sup>2</sup> 売上高 1,055(百万円) (2010年度 : 2011年1月~2011年12月)
適用範囲	株式会社オートアベニュー全社
事業内容	自動車販売・整備、損害保険代理店・レンタル業

# 2 環境方針

## 環境理念

地球環境保護、二酸化炭素排出量削減が世界的に叫ばれる現在、当社の企業活動を通じ、この緑豊かな武蔵野台地の環境を守り、地域社会に貢献できる企業を目指します。

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者の最重要課題です。自社における二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、使用水量の削減に取り組むと共に、顧客へのエコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの清浄化を目指します。また、低公害車の販売に努め、地球環境及び地域環境の保全に配慮して行動します。

## 環境行動方針

当社は、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みます。そのために、以下の「環境行動方針」を定めます。

### (1) 二酸化炭素排出量・削減の推進

事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。また社有車においても、急発進、急加速、急停止などを排除し、やさしい運転に努め、エコドライブを励行し自動車使用による環境負荷の低減に努めます。

### (2) 廃棄物排出量・削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を徹底し、リサイクル化を推進します。

### (3) 総排水量・削減の推進

事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。

### (4) エコ整備・エコ車検の推進 (お客様における二酸化炭素の削減)

自動車における燃費の向上による削減や、有害な排出ガスの削減を旨とし、エコ整備・エコ車検を強力に推進します。そのために、エコ整備の有用性についての説明に努めます。

### (5) エコカーの販売促進 (お客様における二酸化炭素の削減)

大気汚染物質の排出が少なく、環境への負担の少ない車両を積極的に販売していきます。

そのために、エコカーに限定したチラシを作成し、販売促進に努めます。

### (6) リサイクル活動による省資源化の推進

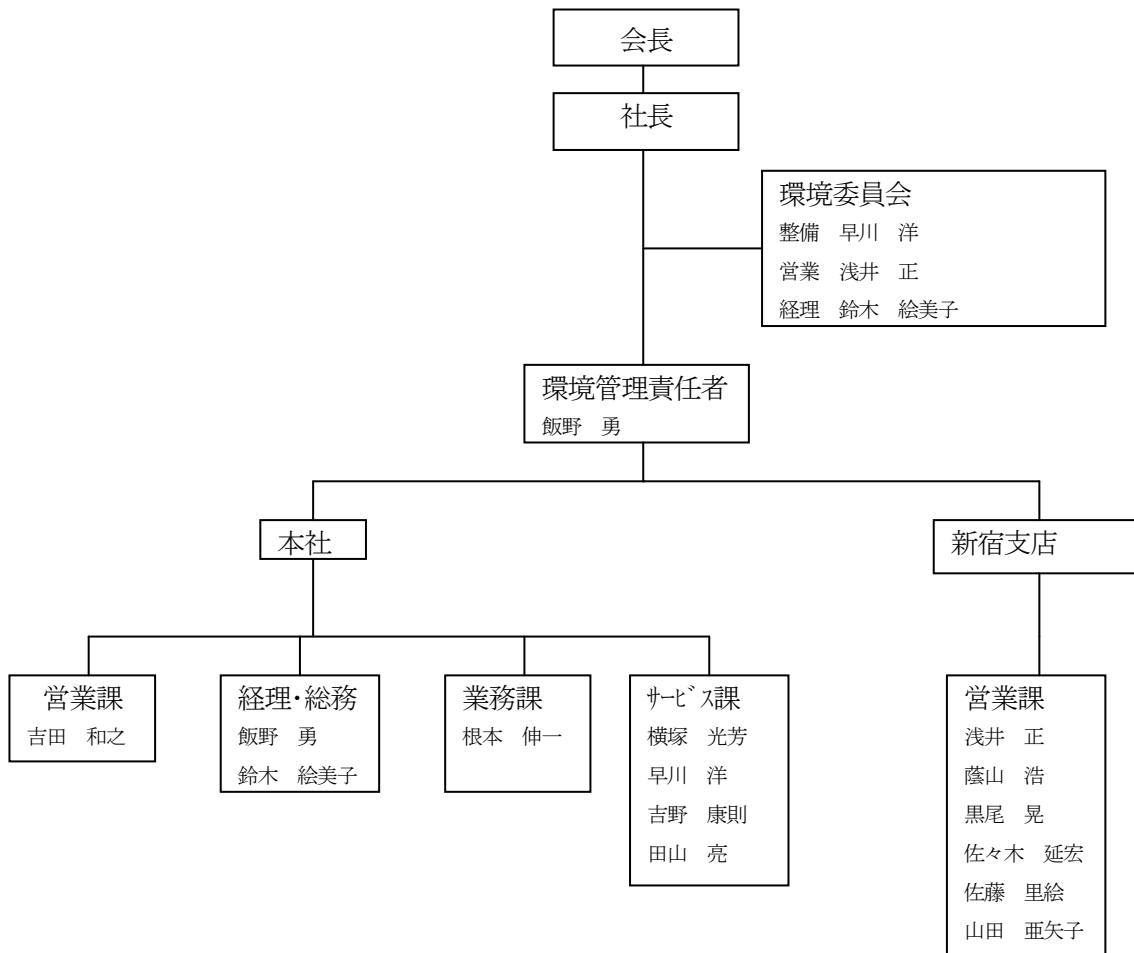
省資源のために、リサイクル自動車部品の使用を積極的に推進します。

### (7) 環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等を遵守することを誓約します。

平成24年3月1日改定  
株式会社 オートアベニュー  
(全国アドバンスクラブ会員)  
代表取締役 伊藤 理香

### 3 環境管理組織



#### 代表取締役会長

1. 記録・報告及び見直し記録に対する全般的な指示をする。  
月に一度の各エコチームリーダーの取りまとめた数字に基づき、全社としての取り組みを把握し、更なる社員の啓蒙活動への指示を文書にて行い指示記録を保管する。

#### 代表取締役（当社の環境経営最高責任者として次の役割を負う）

1. 環境方針を定め、環境管理責任者、環境管理委員を任命する。
2. 環境経営システムの実施・運用のための経営諸資源を準備する。
3. 環境目標、実施計画の承認。環境経営マニュアル及び規定類の制定・改訂の承認。
4. 環境経営システムの見直し。

#### 環境管理責任者

1. 環境委員会を運用・維持管理する責任として、環境経営システムが全ての部署で確実に実行、維持されるための必要な活動の管理と推進をする。
2. 環境経営マニュアルの作成、改訂を行う。
3. 会長に環境経営システムの実績の報告及び見直し記録を報告する。

#### 環境委員会

代表取締役を委員長とし、環境管理責任者及び会長から選任された委員で構成し、環境方針、環境目標、実施計画、教育訓練計画等会社の環境に関する事項の立案及び運用状況の審議等を行う。

#### 従業員

日常の作業において、環境方針に基づき、環境管理システム規格類及び関連する法規制とその他の要求事項の順守。

## 4 環境目標と実績

運用期間（2011年1月から2011年12月：12ヶ月間の実績）

環境負荷	単位	基準期間	目標	運用期間	評価	
		2010年3月 ～2011年2月		2011年1月 ～2011年12月		
購入電力	kWh	73,775	72,918 (-2%)	59,267 -20%	○	
化石燃料	ガソリン	ℓ	12,571.46	11,943 (-5%)	10,312.01 -18%	○
	軽油	ℓ	1,548.66	1,472 (-5%)	910.00 -41%	○
	灯油	ℓ	766	727 現状維持	793 4%	×
CO2排出量	kg-CO <sub>2</sub>	63,046.63	59,893 (-5%)	50,708.16 -20%	○	
水道・排水量	m <sup>3</sup>	341	数値目標設定せず 節水に心がける	362 6%	×	
コピー用紙	Kg	432	420 (-2%)	499.1 16%	×	
一般 廃棄物	可燃	kg	排出量実績値 243.3	排出量把握 234 -19%	○	
	不燃	kg	排出量実績値 不明	排出量把握 1,032Kg	-	
産業 廃棄物	金属廃棄物	kg	1,220	1,159 (-5%) 6%	×	
	廃プラスチック	kg	7,760	7,372 (-5%) (19%)	○	
エンジン洗浄実施台数	台	2	12	5 150%	○	
低公害車販売台数	台	115	117	127 10%	○	

電力のCO<sub>2</sub>換算係数は、0.378Kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用

CO<sub>2</sub>の排出量は大幅に削減

東日本大震災の影響による電力不足から、長期間に亘って、節電をした結果と思われる。

目標達成要因・

購入電力の削減は大幅に達成

震災後の電力不足から、事務所、休憩室の蛍光灯本数を減らし、展示場の水銀灯の使用を長期間に亘り、行わなかった結果、大幅削減を達成した。また、工場内の蛍光灯をE-COOLという消費電力を40%カットする製品に変更し、過剰な節電終了後も無理なく継続的に節電を続けられる環境を整えた。

ガソリン・軽油の使用量の大幅削減達成

レンタルバイクの貸出時にタンクに入れるガソリン量の定量化管理を徹底した結果、使用料削減を達成

軽油に関しては、ローダーの出動回数、目的地に左右される所が大な為、社内にて目標管理をするのは困難

一般廃棄物の削減達成

可燃廃棄物はゴミの分別などで数値管理することにより、より一層の減量を実施した。

産業廃棄物（廃プラスチック）の大幅削減達成

レンタルバイクのFRP製品の修復再生を実施し産業廃棄物の減量に努めた。

低公害車販売台数

近年の新車及び中古車は、ほとんどが低公害車に該当することから販売台数を増加することに努力した。

## 目標未達成原因

### 灯油使用量 増加

震災の影響により、灯油による暖房のみに頼った上、例年以上の冬の寒さが要因と思われる。

### 水道・排水量増加

洗車方法や、雨水タンクの設置、節水コマの取付、トイレタンクの減量等の節水行動は行ってきましたが実績値として増加した。更なる節水目標を設け実施する。

### コピー用紙 増加

整備売上増加のため車検、オイル交換等のチラシを近隣に配布している結果として増加した。

(但し、コピー用紙は再生紙を使用しています)

尚、近隣へのチラシ配布は今後も継続するため、目標管理をするのは困難

### 産業廃棄物（金属廃棄物）の排出増加

本格化したレンタルバイク事業により、バイクの修理時に発生する廃棄パーツ等が増加したことによる。

### エンジン洗淨実施台数

環境保護のためエンジン洗淨により車の燃費向上、CO<sub>2</sub>の排出量の削減等の効果をお客様にご説明し、推進しているが、お客様に左右される為目標値を達成出来なかった。

## 5. 今年度以降の目標

2010年度(2010/3～2011/2)と一部2011年度(2011/1～2011/12)を基準年度として3年間の環境負荷低減の目標を記載る。

環境負荷		単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
			2010年3月～2011年2月	2011年1月～2011年12月	2012年1月～2012年12月	2013年1月～2013年12月	2014年1月～2014年12月
購入電力		kWh	76,881	59,267	70,731 対10年度実績 (-8%)	69,962 対10年度実績 (-9%)	69,193 対10年度実績 (-10%)
化石燃料	ガソリン	ℓ	12,571	10,312.01	10,105 (-2%)	10,003 (-3%)	10,003 (前年維持)
	軽油	ℓ	1,548	910	910 (現状維持)	910 (現状維持)	910 (現状維持)
	灯油	ℓ	766	793	777 (-2%)	769 (-3%)	761 (-4%)
CO2排出量		kg-CO <sub>2</sub>	63,046.63	50,708.16	59,264 対10年度実績 (-6%)	58,633 対10年度実績 (-7%)	58,003 対10年度実績 (-8%)
水道・排水量		m <sup>3</sup>	341	362	数値目標設定せず 節水に心がける	数値目標設定せず 節水に心がける	数値目標設定せず 節水に心がける
コピー用紙		kg	432	499.1	484 (-3%)	479 (-4%)	474 (-5%)
一般廃棄物	可燃	kg	243.3	196.5	193 (-2%)	191 (-3%)	189 (-4%)
	不燃	kg	排出量実績値 不明	1,032	1,011 (-2%)	1,001 (-3%)	991 (-4%)
産業廃棄物	金属廃棄物	kg	1,220	1,290	1,200 (-7%)	1,187 (-8%)	1,174 (-9%)
	プラスチック	kg	7,760	6,270	6,082 (-3%)	6,019 (-4%)	5,957 (-5%)
エンジン洗浄実施台数		台	2	5	7	9	10
低公害車販売台数		台	115	127	130	135	140

\*電力使用、CO2排出に関して、2011年度は東日本大震災の影響で、通常使用とは大きく異なったため、2010年度数値を基準として使用する。

## 6 主要な環境管理計画

### 6.1 二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量

CO<sub>2</sub>の排出起源は電力と化石燃料使用量に限定されるので目標としては電力と化石燃料の削減とする。

対2010年度比較で5%削減の今年度目標数値は、東日本大震災の影響による電力不足によって、20%削減という目標数値を大きく上回る削減結果となった。但し、通常的生活環境に戻りつつある2012年度は、今年度の達成数値を維持することは困難であると思われる。よって、今年度目標は、2010年度に対し6%削減、中長期目標8%削減とする。

### 6.2 電力

8%削減 中長期(3年後)目標 10%削減

#### ①使用時の電源断の徹底

##### ④不使用時の消灯徹底

就業時間前後の空席エリアの消灯を徹底

昼休みの消灯（減灯）

##### ⑤設備更新時には省エネ型機器・設備の購入

PC、プリンタ、コピー機、FAX、テレビ、プロジェクタ等

##### ⑥コピー機/PCは省エネ運転モードに設定

##### ⑦蛍光灯は、省エネタイプのものに順次切り替え

#### ②エアコン使用時の温度設定を以下とします

夏は28℃±1℃以上、冬は20℃±1℃以下（表示：設定、運転時間）

#### ③温度計の設置

#### ④環境負荷の状況を従業員に告知する（環境負荷(CO<sub>2</sub>、電力廃棄物排出量等）の現状を朝礼で報告）

### 6.3 化石燃料

ガソリン・軽油：今年度目標 対2010年度比較 2%削減 中長期（3年後） 3%削減

#### ①社用車の高率的な運転管理の推進

#### ②整備車両の引き取り、納車時の合理的な運行

#### ③レンタルバイク貸出時のガソリン定量化の管理徹底

#### ④燃料効率のよい車両の使用

#### ⑤社有車にエコ整備を・エコ車検を実施

#### ⑥車両入れ替え時にはエコ性能のよい車種を採用する

### 6.4 廃棄物排出量の削減

一般可燃廃棄物の排出量を把握できた為、今年度の目標は2011年実績に対し、2%削減 中長期目標は4%削減

一般不燃廃棄物は、大半がバイクや車のFRP製のパーツとなる。これらの中から修復再生可能なものを再利用していくことにより排出量の削減に努める。

産業廃棄物の排出量は2011年度実績に対し 今年度目標 金属廃棄物7% 廃プラスチック廃棄物6%削減

中長期 金属廃棄物9%削減 廃プラスチック廃棄物8%削減

#### ①分別を徹底し、再利用・再生利用の比率を上げるとともに、排出量を低減する

金属・プラスチック廃棄物の資源化を推進

最終処分に回る廃棄物を減量する

#### ②縮小コピー、裏紙の使用を推進。ミスした紙はメモ用紙などに転用する。書類のデータベース等によるペーパーレス化に取り組んでいる

#### ③再使用可能物品の社内有効利用

・遊休物品は、他事業所で再利用。

・保管資料の見直し、不要資料は廃棄

・不要資料の整理を行い、余剰となったファイルを再利用

#### ④不要段ボールの再利用及びリサイクル用の排出

#### ⑤再生インクカートリッジの使用、トナーの回収を継続

#### ⑥廃棄物収集運搬/処理事業者との契約（その際 事業許可証の確認）

#### ⑦マニフェスト管理の完全実施

## 6.5 水道・排水量の削減

目標 現状維持以下をめざす

- ① 資源節約のため、全員で節水に努めます（節水の注意書きを貼る）。
- ② 圧調整を図り、水の流し過ぎ等の無駄を抑制し、常に節水に努める（節水ゴマの設置）。
- ③ 雨水の貯留タンクを設置し、雨水利用を行っている。
- ④ 水漏れ箇所の点検・修繕

## 6.6 エコ整備の推進

- ①エコ整備の有用性について知識を習得し、わかりやすい説明やエコ整備技術向上に努める
- ②エコ整備、エコ車検の技術講習会への参加、社内での勉強会の開催
- ③エコ整備、エコ車検の認知度向上に努める  
・ポスター掲示など。顧客へのPRツールの作成・調査・研究
- ④エコ整備、エコ車検による燃費向上、排出ガス削減を認知してもらうよう地域の環境イベントに参加

## 6.7 低公害車の販売の推進

- ①低公害車の販売を積極的に推進する
- ②同啓もうを図る
- ③同知識の習得
- ④顧客へのメリット説明に努める

## 6.8 その他

社員への環境意識高揚のため、地域環境イベントに参加する。

# 7 環境活動の取組結果評価と見直し

各環境負荷において、新たに始めたレンタルバイク部門の伸びを考慮すれば、計画した管理計画はほぼ達成したと思われる。

## 7.1 CO<sub>2</sub>（電力の削減）

東日本大震災の影響により、今年度は大幅な節電を行った結果、目標数値を大きく上回る電力削減を達成した。生活が日常に戻っても、節電を可能にするために、工場内の蛍光灯を40%の節電効果のあるE-Coolという製品に変更し、尚且つ、一部本数の間引きを行っている。また、始業ギリギリまで工場の電気を点灯しない、昼休みは消灯するなどの努力を引き続き行いたい。

## 7.2 水道

総量、一人当たり使用量ともに目標を達成した。  
また、前回設置した雨水タンクの使用を含め、今後も節水意識を持ち続ける必要がある。

## 7.3 コピー用紙

近隣にポスティングするチラシの作成やDMの作成などによって、増加してしまっただが、リサイクルペーパーの使用を実施している。

## 7.4 廃棄物

一般廃棄物については計測を実施し、排出量を把握出来るようになった。  
現在、紙・ペットボトル・缶・弁当用プラ容器、キャップのリサイクルを実施している。  
不燃廃棄物に関しては、ようやく排出量を把握出来るようになったので、今後、削減意識を高めていく  
産業廃棄物の金属廃棄物は微増してしまっただが、廃プラスチックに関しては、分別の徹底などで削減が出来た。

## 7.5 エコ整備・エコ車検

目標数値には及ばなかったが、前年実績は上回る事が出来た。今後はエンジン洗浄等の大掛かりなものだけでなく、燃費向上用の添加剤などの販売や、タイヤへの窒素ガス充填などの会員を募るなどの活動を更に活発化していきたい。

## 7.6 低公害車販売促進

エコカー販売に関しては、目標達成を果たした。  
ハイブリッド車を始め、燃費向上の車種が増加し続けている現状を踏まえ、今後も一層の積極販売を行っていく。



## 8 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 8.1 適用となる主な環境関連法規

法規名	適用（要求）内容	必要対応	順法評価
廃掃法	事業活動に伴う産業廃棄物及び一般廃棄物の取り扱いに関する規制	産業廃棄物：プラスチック、金属、タイヤ ；委託契約書、管理票の発行管理 事業系一般廃棄物：生活ごみの排出：委託	適正処理
グリーン購入法	自動車リサイクル部品又はリビルト部品が使用されていることエンジン洗淨の実施		適正処理
東京都の都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	販売業者の適切な環境情報の提供 アイドリングストップ		適正処理
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引き取りと解体業者への適正な引き渡し リサイクル税の徴収代行		適正処理
東京都火災予防条例30条	消火器を設置し、製造年を確認し管理している。		適正処理

### 8.2 違反、訴訟等

環境関連法規制／その他要求事項について期間中の違反事項はありませんでした。  
また、関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求はありませんでした。

## 9 代表者による全体の評価と見直し

### 9.1 環境方針

まだ3年目であり、方針そのものは、企業活動に見合っているため、このまま継続する。

### 9.2 環境目標

2011年度、電気使用量、Co2排出量の削減は、大幅な節電により達成できた。  
前年は化石燃料の使用料が新たに事業の一つの柱とすべく力を入れ始めたレンタルバイク事業の伸びにより増加してしまっていたが、貸出時にバイクに入れるガソリン量の定量化を徹底管理した結果削減に成功した。  
また、電気の使用に関しては、工場の蛍光灯を40%の電力削減効果のあるE-Coolに変更し、また、始業ギリギリまで点灯しない、昼休み時間の小まめな消灯などの積み重ねにより、震災後の極度な節電時期が終了しても節電活動を維持できる体制を作った。

また、産業廃棄物の内、金属廃棄物は微増してしまっていたが、廃プラスチックに関しては、まめに分別を行った結果、排出量の削減を達成した。一般不燃廃棄物に関しては、今回より排出量の把握に努めたが、修理再生できるものは、今後再利用していく方法を確立したい。  
こういった取り組みにより社員全員の意識が更なる向上をしていくと思われる。

エンジン洗淨の拡販に関しては、費用対効果の兼ね合いで、見送られるお客様が多く思うように伸びなかった。しかしながら、一方でタイヤへの窒素ガスの充填を会員制にて多くのメンバーを募っていきたい。  
エコカーの販売に関しては、ハイブリッド車、第3のエコカー、電気自動車など車種も豊富になってきたこともあり、目標を上回ることが出来たので、今後も引き続き積極的な販売をしていく。

目標値に関しては、2011年度の震災による特殊環境によって生まれた実績値もあるため、一部、2010年度実績を基準に目標値を設定した。

### 9.3 環境活動計画

<この1年間の取り組み>

蛍光灯器具からE-COOLへ変更



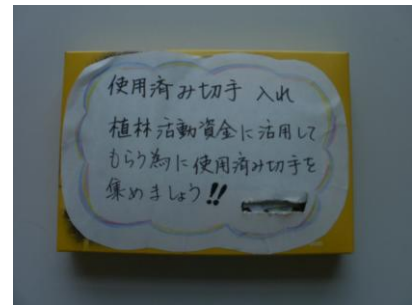
一部は間引きを行っています



雨水タンクの設置により雨水の有効利用



古切手の収集による植林活動への寄付



エコキャップの収集によるゴミのリサイクル



近所へのお使いは自転車エコ！

リサイクルごみは細かく分別しています



スチール缶



アルミ缶は植林友好協会  
へ寄付します



ペットボトル



お弁当容器等の  
リサイクルごみ



週に一度、近隣の道路の清掃や、公園の草むしりなどを全社員で実施しています。社員の環境への意識向上につながっています。

### <次の1年へ向けての取り組み計画>

2011年は、東日本大震災を始め、タイの洪水など災害の影響が大きかった年でした。特に未曾有の震災は、私たち日本人の意識までも変えてしまったように思われます。電力を湯水のように使えて当たり前の生活から、適正な使用に重きを置くような社会に変わりつつあります。このような国民意識の変化は、今後の企業運営においても、決して無視できないものと思います。

さて、2011年5月29日に実施されたアースデイ西東京に初めて出展し、エンジン洗浄を始めとするエコ商品を市民の皆様へPRを行いました。生憎の季節はずれの台風で、宣伝効果は薄かったようですが、あきらめることなく2012年度も同じくアースデイ西東京に出展する予定となっております。今後も地域のイベントに積極的に参加することにより、社員の環境への更なる意識向上と共に、地域住民の皆様にも当社の環境への取り組み姿勢を理解して頂こうと思っております。

今後も環境基本方針に基づき、より一層環境に取り組む姿勢を内外に示して参ります。

株式会社オートアベニュー  
代表取締役社長 伊藤 理香